



古道を訪ねて ④

西国街道・今宮地区

新家の勝尾寺の大鳥居を過ぎ西に進み、箕川に架かる橋を渡ると、街道は南西に方向を変えますが、箕面墓地公園の脇にさしかかると再び道は西に向かいます。府道吹田箕面線を横切り、今宮の旧集落に入ると、右側に「柳谷観世音菩薩」と刻まれた大きな石碑があります。眼病の治癒に霊験があると信仰される柳谷観音は、京都府長岡京市にあります。

わざわざ京都まで行くことが大変だったので、明治38年、地域の人々が「講」と呼ばれるグループを組織し、ここに石碑を建てて信仰しました。往時は参拝者で賑わったそうです。眼病



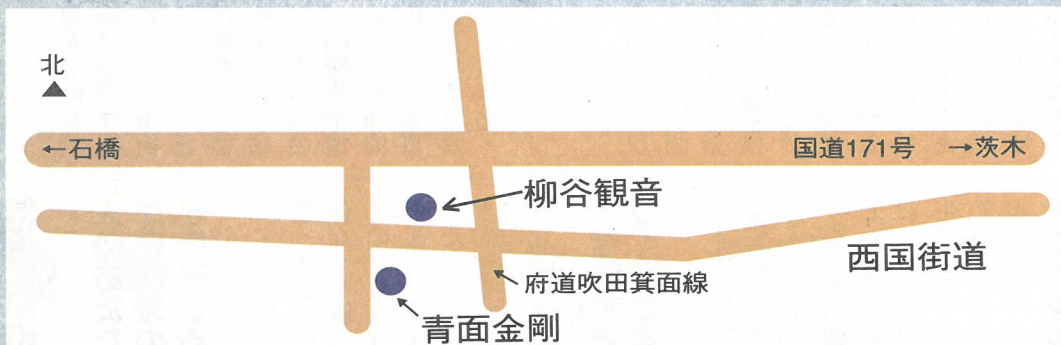
▲柳谷観音

が少なくなった現在、信仰する人もほとんどいなくなりましたが、今でも近隣の人が花を絶やさずに管理しています。

柳谷観音を過ぎ1000mほど進むと、街道は集落内を通る細道と交差します。この細道は、勝尾寺と大坂を最短距離で結ぶ古道で、北へ向かうと、外院から山越えて勝尾寺に、南は千里丘陵を越えて、豊中市の上新田を経由し、桜塚で「箕面街道」と合流して大坂へたどり着きます。

この細道を南に少し入ると道の脇に古木が立ち、その根本に正徳3(1713)年の銘がある「青面金剛」の石碑があります。これは「庚申」を祀ったものです。庚申信仰は、中国から伝わった道教の影響で盛んになりました。60日に一度の庚申日の夜、人の体の中に住んでいる「三尸」と呼ばれる3匹の虫が、寝ている間に体から抜け出して、天帝に人の悪行を報告し、天帝はその内容に応じて寿命を縮めると信じられていましたので、人々は庚申の守り神とされる青面金剛を祀り、庚申の夜は徹夜をして三尸が体から出ていくのを防ぎました。

箕面市内には多くの青面金剛の石碑がありますので、今宮地区だけではなく、各地で信仰されていたようです。



▲青面金剛